

MAR 2014, No.1



日本創造学会

JCSNEWSLETTER

日本創造学会第12期(2014年1月～2016年12月)理事会メンバーの抱負



当学会では理事10名と評議員9名と監事2名が学会運営の役割を担っています。理事会では理事10名・正副評議員長2名・監事2名の14名で会合を隔月開催し本学会の運営上の審議・決定・実施を行っています。各メンバーの抱負を記載します。

櫻井敬三 理事長 兼総務担当理事



私は本学会に入会し30年余が経過しました。この間大半を企業人として過ごし学会の仕事はほとんどしてきませんでした。今回、第12代理事長に就任し身の引き締まる思いでございます。

日本創造学会は人類が歩んで来た社会秩序の進化、社会科学・自然科学の発展、工学的有用技術の進歩などの根源をなす人間の創造に関するあらゆる事柄の研究を行う学術団体であります。従って、会員は特定専門分野学会とは異なり、広範囲の専門分野からの研究者(社会科学から工学まで)や実務家(小学校～専門学校の教員・企業人・官公庁の役人など)から構成されております。

今日の複雑化した社会や技術の問題解決のためには、アナリシス(分析)思考からシンセシス(統合)思考への切り替えが重要と認識されています、この点で最も問題解決実現への対応がしやすい条件を備えた学会であります。この異分野専門家のコラボレーション(連携)こそ創造性発揮にとって大切と考えます。学術団体としてさらなる研究成果と社会貢献を実現できるように運営推進します。

今後3年間で是非とも創設35年の本学会のさらなるイノベーション(社会に寄与する改革)を行えればと考えております。ご支援ください。基本的姿勢は下記3項目で学会を盛り上げてまいります。

1. 社会に開かれた学会運営活動(会員と非会員の分け隔てない交流の場の提供など)
2. 国際大会の開催を通して世界と日本を結びつける架け橋活動(官民学の世界発展など)
3. 研究成果を実社会に生かすことを主眼とした活動(日本を元気な国にする提言など)

以上実現のための建設的な会員からのご意見をお待ちしています。

e-mail (sakurai@tk.jue.ac.jp)

澁谷貞子 副理事長 兼総務担当理事



昨年、櫻井先生からお電話をいただき、「僕は3年間絶対死にませんから副理事長を」と口説かれました。果たしてそのような役割ができるのかなと思いつつ、なんとかなるかもという持ち前ののんきさでお引き受けしてしまいました。

お受けしたからには、理事長の補佐役に徹して、他の理事の方々に教えていただきながら、会の運営がスムーズに行くように努めようと思います。日本創造学会は、会員も役員も独創的な人が多く、あらゆる場面で刺激を受けます。毎年の研究大会は楽しみが大きいです。昨年は台風の影響で残念ながら一部中止せざるを得なかったのですが、今年はその分も含めて、成功に尽力をしていきたいと思っております。

奥 正廣 会長 兼他組織との連携担当理事



今期を学会の新展開の画期と位置づけ、次のような役割・課題を考えています。

1. 理事長による学会の円滑な運営および目標達成のバックアップ

本学会では運営は理事長中心に行われます。会長は理事長の円滑な理事会運営と学会の第12期目標の達成を全面的にバックアップする役割に徹し、また運営責任から離れて自由な立場で発言したいと思います。

2. 新時代の学会アイデンティティ

の再定義(活動の射程・目標・課題の明確化) 本学会は1979年に設立され、2008年には30年史(創造性研究のあゆみ)も刊行されました。現在までの推移を概観すれば、創造技法の開発や創造性研究の草創期、普及・発展期、安定期を経て、しばらく停滞期が続いてきました。それは従来の枠組みの可能性がある程度汲みつくされ、しかも次の新たな枠組みが見出せない時代が続いてきたことを意味するでしょう。しかし役員世代交代が進み、人材的には本格的に新時代への準備が整ってきました。日本社会は、追いつけ追い越せの成長期をとうに脱し、成熟期かつ外部に目標・モデルのない新時代に入っています。とくに3.11福島第一原発事故は従来の日本社会の諸問題が集約的に現れたという意味で決定的画期でした。本学会は未来を見通し新たな社会ビジョンを提供するのも大きな役割です。KJ法の川喜田二郎(初代理事長)はじめ本学会の創設者の思いも、単なる技法の開発・普及ではなく、科学のあり方や人間教育・社会改革にあったと考えられます。その思いを大切に継承しつつ「新時代(成熟社会)における創造性とは何か、本学会の役割・課題は何か」を追求していきたいと考えます。

3. 新時代の創造性追求の基礎となる知識の明確化と共有

学会員一丸となって新時代の創造性を追求していくためには思いや知識の共有が重要になります。とくに脳神経科学やポジティブ心理学、その他諸領域での研究の進展は目覚ましいものがあり、それをふまえた見通しの形成が重要です。そのために最新の関連知識を構造化して提示するハンドブックのようなものの作成が必要だと考えます。

要は、草創期からの学会活動の螺旋的発展が一周し、その間の諸分野の研究知見の発展や世界の動向、日本の歴史・文化の見直しなどをふまえ、再スタートを切る段階に来たのだと思います。その自覚のもとに「人間を幸福にする社会システム」(ウォルフレン)の創造をめざしたいものです。

徐 方啓 副会長 兼国際担当理事



3年ぶり再び国際担当に戻ってきました。この間に、毎年海外で行われた創造性とイノベーションまたはアントプレナーシップ関連の国際会議に参加して、論文を発表したり、知る人と知らない人と交流をしたりしていましたが、何か物足りなさをずっと感じています。それはいったい何でしょう。考えてみると、やはりなぜ日本ではこのような国際会議ができないかという疑問です。ヨーロッパでは、国際会議というと、二、三十カ国から数百人が集まることがごく普通ですが、日本ではなかなかできません。昔なら円高とか、物価が高いとか、何かの理由が挙げられたが、現在そんな状況ではないと言えるでしょう。日本創造学会はアメリカ創造教育財団(CEF)に次ぐ歴史が長い創造性研究組織ですが、このネックを超えなければ世界の創造学界では地位を得ることが難しいので、在任中関係者と緊密に連携して日本で本格的な国際会議を開催するよう努力します。

高橋 誠 広報担当理事



1974年創立の日本創造学会は今、大きな曲がり角にいます。KJ法の創始者川喜田二郎先生が初代の会長であるのが象徴で、従来はどちらかというと創造技法が中心の学会とみられていたのは否めないでしょう。7代目会長の私も創造技法が専門です。しかし技法はあくまでも創造のための道具でしかありません。日本創造学会はその名のおと「創造」を課題とする学会です。とすれば我が学会は「創造」の全てと最先端を研究する学会であるべきです。現代の世界、中でも日本は模倣からの創造ではなく、革新的な創造が求められています。このために我々は、まず「創造の定義」から直さなければなりません。そして創造の分野、創造の思考、創造の技法、創造の手順においても新たに考えてみる必要があります。そのために私は理事として微力を尽くしたいと思います。

川路崇博 広報担当理事

会員の専門分野や関心テーマは多様化しており、研究範囲も広がりつつあります。このような中で、情報伝達やコミュニケーションを、主にデジタル面から支援することができればと考えております。メディアそのものが激動している昨今、その性質をうまく利用しながら、会員の活動を深めていくお手伝いができれば幸いです。よろしくお願いいたします。

田村新吾 研究会担当理事

クリエイティブサロンを担当しています。私は、自身の成長の足跡から「創造的経営者に偉業をなさしめる『啓発家』」を自認しています。早大商学研究科では社会人、慶應義塾大学理工学部とソニー学園湘北短大では学生に対し、商品論を講義していますが、学生各自の気づきを重視し、個性的な商品企画書を創作させています。企業経営者には、経営者の特質を生かした事業経営を薦めています。クリエイティブサロンでは、サロンという空間を通し、講演者や、ワークショップ指導者の熱意と受講者の心を合流させ、第三の閃きが各自の心に芽生えるよう熱いものになりたいと思います。講義が経ならば、ワークは緯。双方織り成して経緯となります。創造思考の経緯を参加者みなさんと織り込みましょう。私のバックグラウンドは工場街育ちの工夫好きと早大理工学部で専攻したロボット研究、そしてソニー38年の設計、企画、事業経営などで、その創造経営歴がベースになっています。

西浦和樹 論文誌編集担当理事

今年度、論文編集委員長を仰せつかった西浦和樹です。投稿論文の編集の方針は、本学会のキーコンセプトである創造性が一般の人でも分かりやすく読めることを目指します。まずは、できる限り多くの人に価値ある情報が提供できるように、工夫したいと思えます。和文論文誌の役割を改めて考える時期に差し掛かっていると考えます。数多くの学会が設立され、国際競争力が叫ばれる中、本学会も国際場面で活躍される学会員を輩出しております。しかしながら、思考の本質は母国語であり、日本という最先端科学技術をフィールドとする我々にとっての思考ツールは日本語が中心になると考えます。創造性は、人間の知性をつかさどる性格的特徴の一つでもあり、普段の生活の中でこそ、発揮されるものです。したがって、和文論文誌は、学会員の普段のコミュニケーション・ツールとして重要な役割を果たすのではないのでしょうか。

とにかく、今年度は、少しでも学会員に役立つ情報の提供に取り組む所存です。

樋口健夫 国際担当理事

この度、理事に再任されました樋口健夫です。日本の企業の国際競争力の低下を挽回するための大きなチャンスが、今だと考えています。ハイブリッド、電気自動車、自動運転車などの自動車の復活、生命科学の主要な発見が日本で続いていること、観光立国、オリンピックの開催なども順風です。これを軌道に乗せるためには、個人、企業、研究所、教育界など、あらゆる分野での創造性を革新させ、向上させる必要があります。小生の研究の創造性の具体的成果と過去の海外体験を元に日本創造学会の発展に寄与したいと考えています。担当は国際関係です。

前野隆司 他組織との連携担当理事

少子高齢化時代を迎え、震災への抜本的対策、諸外国との競争激化、領土・外交問題等、あらゆる物事が大規模・複雑化・複合化し解決困難になる中、これからの日本では、これまで以上に創造性を発揮したイノベーションを推進していく必要があります。このため、近年、デザイン思考、ワールドカフェ、フューチャーセンターなど、協創による創造性発揮の研究・教育が世界的に活発化しています。その結果、産業界では、新規事業や起業につながるイノベーションの創出が、官公庁や地方、そして多様なコミュニティでは、様々な形の地域活性化が、それぞれ、活発化しています。私も、慶應義塾大学大学院SDM研究科という文理融合の大学院において、創造やイノベーションにつながる「システム×デザイン思考」の教育・研究を行ってきました。日本創造学会においても、この分野の研究者・実践者との連携を密にして学会の発展を担って行きたいと考えています。よろしくお願いいたします。

澤泉重一 監事

監事のつとめを行うには、学会全体の活動を広く、長い視野で把握するとともに、将来のターニングポイントとなる些細なできごとに気付くことが求められると理解しています。そのために会員の皆様のお話に耳を傾け、お考えを日ごろから聴かせていただくことが大切であり、目の前に展開される活動の意図を多くの方々にご教示いただくことで、目的により近づくことができると考えます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。課題とする発想と発見に関わりの深い日本創造学会の活動現場に立ち会うことは大変楽しみであり、まだ世の中に認められていない発想や研究を立ち上げることに努力している研究者の方々には、創造的観点からの支援活動が可能となるように留意して行きたいと思っています。特に、評価の不十分さによって生起するさまざまな困難と立ち向かう研究者には創造的社会的進展を促す方向で尽力したいと考えています。

豊田貞光 監事 第36回大会実行委員

高島易断所、平成二六年神宮館運西暦によれば、当方の五黄土星は◎(強盛運)です。中でも「何事にも強い信念を持ち、前向きに取り組む積極性が求められる。また、そうした一生懸命さが周囲からの信頼関係を得られる。あれこれ迷わず、目標を高く将来設計があるなら実行に移す周期で、小事にこだわって大事を見失っては、折角の運氣を取り逃がす。」とあります。さらに、「目上や知識者の引き立てもあるので気を大きく持ち、来るものは素直に受けて全力投球することで収穫も大。取引や商談では腰を低くし、筋を通せば万事順調に進む。」とあります。ちょっといい気になっています。

今年の抱負として学会活動において目標を高く持ち、36回研究大会を積極的に盛り上げます。また、自己の研究領域としては、ポジティブ心理学を援用した創造性開発方法論を探求したいと思います。サイエンスに占を持ち込むのはご法度かもしれませんが、信じる者は救われます。とにかく、学会の諸先輩たちの英知をお借りし、大会や各種イベント、新たな知見創出に一所懸命頑張ります。

國藤 進 評議員長 兼研究会担当

日本創造学会評議員長に選任された國藤 進です。評議員は大所高所にたつて、日本創造学会の理事会が有機的に機能することを応援することが本来の役割です。

しかしながら今期は研究会・教育担当の田村新吾理事とタッグを組み、「クリエイティブ・サロン」の大胆な活性化に取り組みます。そのため従来から行っている講演会のみならずワークショップを併用し、内容もデザイン創造やイノベーションに関する最先端の講演者を巻き込みます。理事・評議員の豊富な人脈を駆使し、あっと驚く人材を皆さんにご紹介していきます。日本創造学会は今こそ「アイデアを生み出すのみならず、それを形(もの・こと)にする」までの領域をカバーする学会へと生まれ変わります。

石川大介 副評議員長 兼研究会担当

この度、日本創造学会の副評議員長に任命されました石川大介です。

主に研究会「クリエイティブ・サロン」の活動を支援させて頂く予定となっております。

私は博士後期課程の頃から本会に参加しています。当時、発想支援システムをテーマに研究しており、本会から創造性に関する様々な知見を学び、学位論文の執筆に大変参考になりました。

今期からは、本会の活動をサポートする側となり、微力ながら貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

【評議員】(50音順)

大屋八重子 片岡真吾 佐藤道子 白坂成功 永井由佳里 林義樹 弓野憲一



第30回クリエイティブサロン開催のお知らせ

研究会担当理事 田村新吾

日本創造学会ではこれまで年5回、創造性研究会を実施して来ました。2014年より、創造性研究会をさらに充実発展させた、クリエイティブサロンを開催していきます。クリエイティブサロンは2部構成で、主に第1部は講演会、第2部はワークショップが行われます。会員・非会員を問わず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開催日：2014年3月29日(土)13:00～18:00 会場：日本経済大学大学院1階246ホール



**第1部
講演会講師：國藤 進 氏**
北陸先端科学技術大学院大学
名誉教授・特任教授
日本創造学会評議員長

講演テーマ：
W型問題解決学によるイノベーションデザイン方法論

「W型問題解決学」は演者が学生時代、文化人類学者川喜田二郎先生から学んだ創造的問題解決の方法論である。

その前半は問題提起、現状把握、本質追及のラウンドからなる文化人類学(社会科学)の方法論である。

その後半に自然科学の「仮説・検証」の方法論を接続して、様々な科学や工学の問題を解決してきた。社会科学の問題解決としてミニ移動大学活動、自然科学の問題解決としてアブダクションシステムの実装、工学の問題解決として認知症高齢者の介護支援システムの構築の事例等を紹介する。

《スケジュール》

- 13:00 開場
- 13:30-15:00 第1部講演会
- 15:00-15:30 休憩・開場整備
- 15:30-18:00 第2部講演会&ワークショップ
- 18:15～ 別会場にて懇親会

会場：日本経済大学大学院1階246ホール
所在地：〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町25-17
JR渋谷駅より徒歩3分
参加費：会員/無料 非会員/資料代500円
※懇親会(希望者)は3,500円程度の実費

※参加希望の方は、下記[]内について事務局までメールでお申し込み下さい。
[氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無]



**第2部
講演会 & WS講師：有馬 淳氏**
北陸先端科学技術大学院大学
客員准教授
会津大学特任教授

講演テーマ：
イノベーションとデザイン思考

商品価値の視点が「もの」から「こと」を重視する傾向へ産業界が進行する中、デザイン思考の方法論が注目されている。

見えないユーザーのニーズを感知し、ユーザーに受け入れられる「こと」を探し出し、作り上げていくデザイン思考のプロセスのうち、今回は特に「共感」と「創造」を中心に取り上げる。デザイン思考にまつわる重要な概念をいくつか概観した後、実際に参加者とプロセスをなぞらえながら、体験的にその考え方を理解し深める。

経路「渋谷駅南改札西口⇒歩道橋対面⇒国道246号線沿」



◆5月開催のクリエイティブサロン予告

開催日：2014年5月17日(土)13:00～18:00

第1部 講演会講師：浅井由剛氏 (株)カラーコード代表取締役 クリエイターチーム「カラフル」主催
ソーシャルデザインラボ代表 静岡県地域づくりアドバイザー
講演テーマ：「デザインと東西哲学」

第2部 ワークショップ講師：石井力重氏 アイデアプラント代表 日本創造学会会員
WSテーマ：「実践！アイデアワークショップ ～自然と健康が増進される衣服を考案しよう～」



2014年度学会誌（18号）論文投稿の募集

当学会は通年査読です。いつでも投稿できます。早目にどうぞ！

編集委員長 西浦和樹

1. 2014年9月末までに投稿され、12月末までに採録された論文が18号学会論文誌(2015年2月発刊)に掲載されます。ご投稿の際には、学会HP「論文を投稿したい方へ」に記載されている論文投稿要領(論文投稿規定および論文執筆要綱)をご覧ください。なお、この論文投稿要領をクリアしていない論文は、受理できない場合があります。過去の論文誌の掲載論文例でフォームを確認するのが便利です。なお電子投稿(pdf化が前提)を歓迎します。また大多数の会員が日本人なので、投稿は原則として邦文としますが、日本語を母国語としない投稿者のために、英文も許容します。

◇論文発送先：〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1

宮城学院女子大学 発達臨床学科 西浦和樹 (電子投稿時 nishiura@mgu.ac.jp)

2. ケーススタディ(事例研究)のような実践的論文の投稿も歓迎します。採録にあたり「実践論文」などの区分記載をするかどうかは、査読者の見解を参考にして、編集委員会で個別に決定し、投稿者に打診します。なお、事例紹介のみでの投稿ではなく、オリジナリティーがあり普遍性・論理性・妥当性を持っており客観的考察がなされている論文であることが求められます。

3. 査読プロセスの公平性を高めるために、著者が誰であるか、誰の指導を受けているかをマスキングします。したがって、投稿時に当事者が特定できる文献の著者名・所属・謝辞文献は消去し、参照の文言も細心の注意を払ってください。投稿時にマスキングした論文3セット、マスキングしていない論文1セットの計4セットをご送付ください。電子投稿の場合、マスキングした論文とマスキングしていない論文の各1セットが必要です。

4. 論文発送と同時に、編集委員長にe-mailを送り、下記の5点を通知してください。

①論文タイトル、②著者名、③所属、④論文の仕上がり枚数、⑤緊急連絡先電話番号
なお、送信メールアドレスはご連絡に使用しますので通常使用されるものをお願いします。

◇西浦メールアドレス nishiura@mgu.ac.jp

5. 論文掲載料は、第1著者が正会員の場合2万円、学生会員の場合1万円で、掲載決定時に請求します。採録時に規定枚数(20ページ)を超過した場合の超過掲載料は、1ページにつき5千円とします。

6. 投稿論文が採録され、学会誌掲載前で採録決定証明書が必要な方は申し出てください。学会編集委員会で証明書の発行を随時行います。

2013年度論文誌Vol.17の推薦投票について

【論文賞推薦投票について】

掲載された論文の中から、学術的な価値があり、日本創造学会論文賞にふさわしいと思う論文2編を選び、推薦して下さい。推薦理由は、できるだけ詳しく記載して下さい。(投票権は正会員のみ有します。)

【投票方法】

論文誌とともに送付された投票用紙に記入後、事務局へFAXまたはメール添付で送信して下さい。

【推薦投票の締め切り】 2014年6月末日

投票結果は学会賞委員会がとりまとめ、投票結果を参考に審議し、論文賞を決定します。

学会賞委員会は、学会賞表彰規定に則り構成されます。

論文賞受賞者は2014年度研究大会中の学会賞表彰式にて表彰されます。

第12期(2014-2016)学会賞委員 (50音順敬称略)

石川大介、奥 正廣、川路崇博、國藤 進、櫻井敬三、澤泉重一、澁谷貞子、徐方啓、高橋 誠、田村新吾、豊田貞光、西浦和樹、樋口健夫、前野隆司

第36回日本創造学会研究大会

大会テーマ（仮）：

体験と創造



— どのようなキッカケが閃きの扉を開けるのか —

開催日 2014年10月25日(土)～26日(日)

2014年度の研究大会は、10月25日(土)～26日(日)に東京都内で開催をされます。(仮)テーマは、『体験と創造 — どのようなキッカケが閃きの扉を開けるのか —』です。話題性あるゲストスピーカーの招致、パネルディスカッション形式のシンポジウムなどを企画中です。ご期待ください。大会についての詳細は次号ニューズレターでご案内致します。

〈発表論文掲載料〉

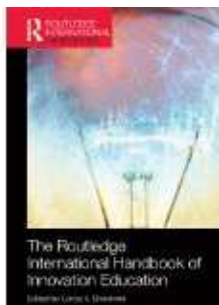
- ①原稿 (A4, 1680字) × 4枚 : 2000円
②1枚追加ごとに1000円

〈大会参加費〉

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み /	3000円	2500円	4000円
当日払い /	4000円	3000円	5000円

発表申込の締切は7月末日、発表論文の締切は8月末日を予定しています。

◆書籍◆紹介◆



2013年5月、イギリスの老舗出版社ラウトレッジ(Routledge)はThe Routledge International Handbook of Innovation Educationを出版した。この本の編集者は、カナダケベック大学のLarisa V. Shavinina教授である。

全書は12章45本の論文から構成され、632ページある。各章のタイトルは次の通りである。
①イントロダクション、②イノベーション教育の本質、③創造性はイノベーション教育の基礎、④イノベーション教育の評価と識別、⑤天才、英才教育からイノベーション教育、⑥イノベーターの育成における教師、親と学校の役割、⑦数学教育における数学能力とイノベーションの研究、⑧理科教育におけるイノベーション、⑨工科教育はいかにしてイノベーション教育に貢献するのか、⑩イノベーションマネジメント、アントプレナーシップとイノベーション教育、⑪イノベーション教育に関する政策、制度と政府の努力、⑫結論。世界18カ国64人の学者はこの本の執筆者となり、筆者もシャビニナ教授の誘いに応じて、”New creative education: When creative thinking, entrepreneurial education, and innovative education come together” (pp.142-150)を書いた。
(徐 方啓)

日本創造学会論文誌Vol.1-17 全17巻(1996年～2013年)

研究大会論文集12巻(2002年～2013年)は学会事務局にて販売しています。

- ◆ 論文誌新刊(2013年版Vol.17) 書籍・DVD 価格3,000円
論文誌バックナンバー 書籍・DVD 価格2,000円
- ◆ 研究大会論文集 DVD 価格2,000円

※2011年以前の論文誌と全研究大会論文集はDVDデータ(PC対応)となります。発送の際にはメール便送料実費がかかります。

各号論文誌・論文集に採録された論文タイトルは学会HPで確認できます。



新年度 住所・所属等の変更はありませんか？

新しい年度となる4月から卒業・転属等で住所・所属先等が変更される方は、お手数ですが学会事務局まで変更についてご一報下さい。

●●●● 入会者紹介 ●●●●

(個人情報が含まれるため、Web版では削除いたしました)



会費納入のお願い

2014年度の会費納入の書類を発送させていただきました。学術団体である当学会は、会員の皆様の会費により運営されております。より充実した学会活動を展開するためにも、納入のご協力をお願い申し上げます。

なお、論文誌17号(2013年度版)は、2013年度会費を納入している方に送付させていただいております。納入済みで論文誌が未到着の方は事務局までお問い合わせ下さい。

【郵便振替(郵便局窓口)の場合】

00160-6-126409 (加入者名:日本創造学会) ※同封の振替用紙をご使用下さい。

【銀行振込・インターネットバンキングでの振込の場合】

ゆうちょ銀行(金融機関コード9900)店番019 店名019店(ゼロイチキウ店)

当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ



事務局メッセージ

この冬は首都圏でも雪の多い冬となりました。2月8日に開催予定だったクリエイティブサロン(石井力重氏によるワークショップ)は大雪のため急遽中止になり残念でしたが、石井氏のWSは5月に開催されることが決まりました。

学会主催のイベントは、ニューズレター、学会ホームページ、学会フェイスブック、e-mail等で随時ご案内して行きます。

皆様の参加をお待ちしています。

日本創造学会 ニューズレター

2014年3月発行 (No1)

日本創造学会事務局

発行人 : 櫻井敬三

編集担当 : 比嘉由佳里

〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4-7-6-816

Tel 080-3465-6152

Fax 047-314-6380

e-mail : jcs-info@japancreativity.jp

<http://www.japancreativity.jp/>